北海道被爆者協会は、来年３月末に解散し、

新たに北海道被爆者連絡センターを設立します。

１９６０(昭和35)年に北海道被爆者協会(当時は北海道被団協)が誕生してから、今年で64年になりました。「再び被爆者を作るな」を合言葉に、被爆者の援護と核兵器の廃絶を求めて皆さんのご支援ご協力のもとに活動して参りました。

前者に関しては不十分ながらも現行の被爆者援護法を制定させ、後者に関しては核兵器禁止条約が国際法として施行される成果を上げることができました。

しかし私たちも年齢を重ね(昨年３月末で北海道の被爆者の平均年齢は８５．８８歳)、実際に活動できるものも数名になってきました。組織としての日常の実務、遠隔地での会議、協力団体との共同行動、とりわけ冬期間の活動等が困難になってきました。それぞれが病気を抱え、事務局会議にも全員そろうことが難しくなっています。

加えてヒバクシャ会館の運営を今後どうするのかという差し迫った問題もありました。私たちが健在のうちに見通しをたてなければならないと考えてきましたが、幸いに学校法人北星学園が私たちの譲渡の申し出を引き受けて下さることになりました。会館は当面現状のまま、将来的にも設立の趣旨を踏まえた活用を考えていただけると思います。

そうしたことを総合的に考え、去る５月19日の総会で、被爆者協会を来年３月末で閉じる決定をしました。被爆80年を前にした苦渋の決断です。

今日まで被爆者協会を支えてきて下さった皆さん、会館建設とその維持運営に多大なお力を注いでくださった皆様に、この場を借りてご報告し、今回の決定に特段のご理解をお願いする次第です。

ただ解散ですべてが終わるわけではありません。解散後は「北海道被爆者連絡センター」 (仮称、被爆者・二世・支援者の協力で構成したいと思います)が窓口となり、「再び被爆者を作らない」との考えのもと、被爆者相談、語り部派遣等の調整、原爆展と原爆死没者追悼会の実施、ノーモア・ヒバクシャ会館見学者への説明等を行います。また、北海道・札幌市、日本被団協等との連絡も続けるつもりです。

なお、この間の経緯を記した機関紙『被団協』道内版、７月～８月に行います「被爆の証言と原爆展」「原爆死没者追悼会」のチラシを同封させていただきます。

今後とも変わらぬご支援をお願いしてご挨拶に代えさせていただきます。

２０２４年７月５日

一般社団法人北海道被爆者協会

会　長　　廣　田　凱　則